



写真1 モジヨマ



図1 モジヨマの位置

ミステリアス・ジオコース(仮称)の紹介1

八峰町の西海岸は総延長約18kmあり、変化に富んだ地形を呈しています。泊海岸から県境付近にある須郷岬、そして隣県に位置する入良川河口までの区間には多くのジオサイトが設定されており、海岸沿いには道路もあり、各ジオサイトを訪れるには便利です。ところがチコギ崎から須郷岬までの約2km区間には道がありませんので、ビクターにとっては不便なコースとなっています(図1)。

その反面訪れる人々も限られているので、この区間の海岸をみると自然が良好に保たれていることがわかります。この区間には思いもよらぬ自然の営みを垣間見ることができ、まるでミステリアスな世界に飛び込んだ気持ちに

岩館海岸モジヨマのはなし

チコギ崎の北寄りに細長い入り江(写真1)があり、地域の人たちはこの入り江を「モジヨマ」と呼んでいます。その訳を岩館在住の岡本忠直さんから語っていただきました。

この話は昭和の初期頃のできごとでした。ある晴れた夏の頃、一人の漁師が朝早くこの最良の漁場で漁を始めました。その日は大漁であつたらしく、晩、暗くなるまで漁をしていたらしいのです。

普段は漁が終わるとモジヨマに入り、ここで魚類を水揚げし、それらを背負って現在灯台のある場所まで運び上げていました。その日は大漁だったことと、あたりが暗くなったことなどを考え、チコギ崎の先端を廻り崎の南側の砂場に陸上げしようと決めたらしく、岬の沖に出てしまったらしいのです(写真2)。夏の晴れた日は海陸風が起ることは知っていたはずなのに岬を廻るコースをとってしまったことは、魔がさしたという事でしょうか。その時間帯は陸風(陸軟風)が強かったはずなのです。それからというもの、夜になると沖

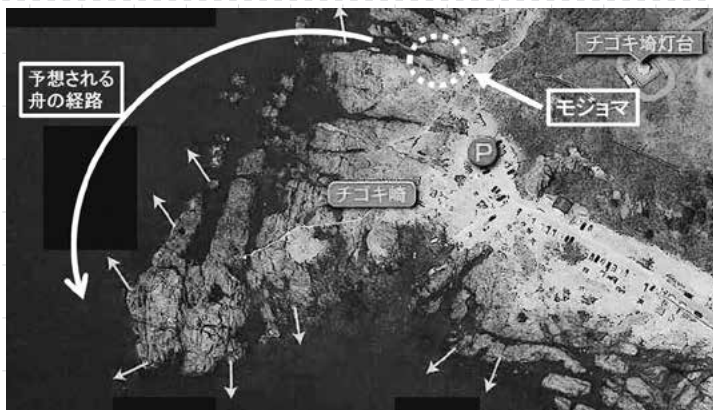


写真2 (出典: 2013秋田・山形海釣り 秋田魁新報社)

に向かって舟を漕ぐ音がギーコ、ギーコと聞こえるようになったという事です。地域の人たちはきつと亡くなった漁師さんが仏になりきれずに亡者となつて、今でも舟を漕いでいるものと思ひ「亡者の間」、これが訛つてモジヨマと呼ぶようになりました。

八峰白神ジオパーク推進協議会
研究専門員 工藤 英美
TEL 018-2632

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一
ぶなつこランド内
TEL 0185-77-3086